

2019 5 月選抜 LS [0513]

受験番号

2018 年度秋入学 甲南大学法科大学院

社会人特別選抜入学試験問題

専門論文試験

憲法・刑法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は、憲法、刑法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペン（但し、フリクション等の消せるボールペンは不可）または黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 憲法

《第1問》

以下の【事例】を読んで、〔設問1〕〔設問2〕に答えなさい。

【事例】

Xはフリーのジャーナリストで、現在、全国で被害者が出た巨額詐欺事件取材している。この事件で主犯とされる人物Aが逮捕されたが、Aは一貫して無罪を主張していた。Aが起訴され、Xはこの刑事事件の公判期日における公判（以下、「本件公判」という。）を傍聴しようとした。しかし、本件公判の傍聴希望者が多く、抽選が行われた結果、Xは抽選に外れ、傍聴することができなかった。本件公判が開かれた法廷には傍聴席が30席あり、そのうち司法記者クラブ所属の記者に10席、一般傍聴人に20席が割り当てられていた。本件公判の一般の傍聴希望者は21人で、抽選に唯一外れたのがXであったが、公判開始直前になっても、司法記者クラブ所属記者用の席は3席空いていた。Xは、空席の内の1つに座らせて欲しいと、裁判所職員を通して裁判長の許可を求めたが、許可されなかった（以下、「本件不許可処分」という。）。

Xは、本件不許可処分が違法だと主張して、国家賠償請求訴訟を提起した。

〔設問1〕

憲法82条は裁判の公開原則を定めているが、裁判の対審及び判決が公開の法廷で行われるべきなのはなぜか、説明しなさい。

また、裁判傍聴の権利が憲法で保障されているかについて、判例の立場を書きなさい。

〔設問2〕

Xが本件不許可処分を憲法違反だと主張するとすれば、その主張はどのようなものとなるか。具体的に書きなさい。

《第2問》

国会議員の立法行為（立法不作為を含む。）は、どのような場合に、国家賠償法1条1項の適用上、違法の評価を受けるか。判例の立場を説明しなさい。

専門論文試験 刑法

《問題》

以下の【事例】を読んで、Xの罪責について論じなさい。

【事例】

高校3年生のXは、A高校のテニスクラブの部長をしていたが、同じクラブのBとは、日頃からクラブの運営について意見が合わなかった。ある日、Xが部室を出ようとしたとき、突然、廊下にいるBがテニスのラケットを頭上に振りかざしながら、興奮した様子でXに近付いてきて、いきなりXの頭を1回殴った。Xは、抵抗し、Bともみ合いながらラケットを奪い取り、そのラケットでなおも抵抗するBの頭部、顔面等を数回殴った。

その後、BはXからラケットを奪い返し、殴る素振りをしたので、Xは、走って2階廊下から1階に通じる階段を駆け下りると、BもXを追い掛けてきたが、段を踏み外して転がり落ち、1階のたたき部分でうずくまった。

Xは、振り返ってBを見ると、なおもラケットを握りしめていたので、また殴られるのではないかと思い、Bが立ち上がる前にラケットを奪って殴ってやろうと思い、Bからラケットを奪い取り、その頭部、顔面等を何度も殴った。

Xによる暴行の結果、Bは加療約1か月を要する傷害を負ったが、これらの傷害がXのどの暴行によって生じたか特定できなかった。

以上